

わが家にハチが押し寄せた！



—農的社会デザイン研究所代表・蔦谷栄—

8月18日の朝、8時少し前に娘が出勤のため玄関を出たところ、すぐに「何かものすごく虫が飛んでいる」と言って慌てて家の中に舞い戻って来た。恐る恐る外の様子を探ってみると、家の門の横にある梅の木の下に40~50センチほどの半円形の塊が出来ており、ここからハチが飛び回っていることが分かった。家内とやりとりする中で「これはハチの巣に違いない」ということになったが、「それにしてもこんなにハチの巣が大きくなるまで気が付かずにいた私たちは何をしていたんだろう」「これも年齢のせいかな」とまずは自己反省した。

ご近所でスズメバチの大きな巣を撤去するのに、市役所から来てもらったという話を聞いたことを思い出し、家内が市役所に連絡。市役所からは、市の業務としてハチの巣の撤去を行うわけではなく、業者を紹介するのみ、とのまっとうな回答があった。教えてもらった電話番号の業者二つにすぐに連絡したところ、一つの業者がその日の午後に巣の撤去に来てくれることに。

業者が来るまでにはまだ時間があり、様子を見ているしかない、ということではあったが、私が代表世話人と一緒に活動している銀座農業コミュニティ塾の高安和夫塾長は銀座ミツバチプロジェクトの理事長でもあることから、高安さんに電話した。高安さんからは「すぐに写真を撮って送れ」との指示が。そこで早速写して送ったのが左下の写真だ。これを見た高安さんから、「ハチの巣ではなく、日本ミツバチが分蜂（ぶんぼう）したものの。巣の置き場が決まったら移動していくはず。こちらから手を出さなければ刺すことはない。数日、様子を見守っていればいい」との、さすがプロならではの診断が下りた。前日まで雨の多い日が続いていたのが、一転して快晴になったことから、急ぎ分蜂活動を開始したもので、取りあえずわが家の梅の木に移動した、とのお見立てだった。

一方で家内は、まだいくら涼しいうちにといいてポールウォーキングでの散歩に出掛けた。玉川上水に沿って10分ちよっと歩いて小金井公園に入るのがいつものルートで、公園のそばには農家が何軒もあり「江戸の農家みち」沿いに直売所もある。そこで家内がハチミツも置いてある島田農園の直売所に居た奥さんに状況を話したところ、「うちでは養蜂もやっている」ということで、ご主人が軽トラックに巣箱を積んでわが家に急行した。島田さんは西洋ミツバチを飼育しているそうだが、「これは日本ミツバチの分蜂」ということで高安さんのお見立ての通り。後は島田さんが1時間以上かけて丁寧にハチを巣箱に移してくれた。テニスボールくらいのハチ群は残ったものの、時間がたてば居なくなるだろうとのこと。作業開始前には業者に断りの連絡もしており、一件落着となった。



自宅の庭にある梅の木の下に分蜂した日本ミツバチ

ハチも駆除されずに生き残って結果オーライだが、ハチはなぜわが家に来たのか。近くには玉川上水や小金井公園などの緑豊かな自然環境が残っており、野生の日本ミツバチの巣があることは間違いない。ところが当地区では最近、住人が亡くなったり施設に入ったりして家屋を処分・売却すると、そこに庭のない家が2、3軒建つことが多い。住宅地の中の緑は減少する一方で、梅、ビワ、ミカンなど花木の多い、わが家の緑が貴重化してきたのか。まだ原因は特定できないままである。



蔦谷 栄一（つたや えいいち）

東北大学経済学部卒業。1971年農林中央金庫入行、熊本支店長、農業部副部長を経て、96年7月農林中金総合研究所基礎研究部長。常務取締役、特別理事などを経て、現在、農的社会デザイン研究所代表。

〔主な著書〕

「未来を耕す農的社会」「農的社会をひらく」「地域からの農業再興」「共生と提携のコミュニティ農業へ」（以上創森社）

「日本農業のグランドデザイン」（農山漁村文化協会）など